

遺伝子組み換え型HCGの使用感と受容度の実態調査

医療法人 正育会 春木レディースクリニック

○岩本真由弓 中村今日子 田淵佳代 小西歌織 徳山裕子
金田涼子 三枚史子 山中薫子 前田洋一 春木篤



私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

目的

排卵誘発及び黄体化治療には従来尿由来のヒト性腺刺激ホルモン：Urine-derived Human Chorionic Gnadotropin（以下uHCG）が使用されてきた。
今回遺伝子組み換え型ヒト絨毛性腺刺激ホルモンであるオビドレル：Recombinant Human Chorionic Gnadotropin（以下rHCG）が認可されたことを受け、2種類の注射の形状や性質の違いによる痛みや抵抗感などの違いを知り、今後の適切な情報提示、指導を行うことを目的とした。

対象・研究方法

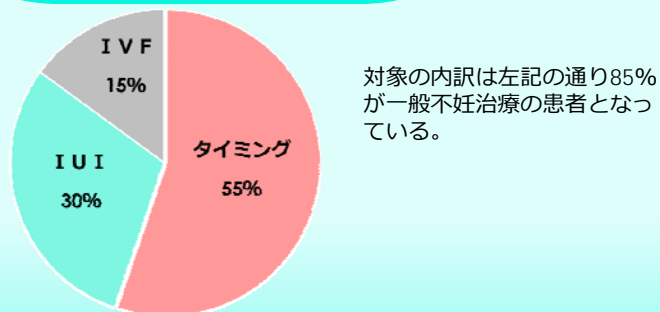
【期間】 2017年3月～5月
【方法】 rHCG療法を使用した患者71名を対象としアンケート調査を実施
【対象】 一般不妊治療患者【タイミング・人工受精】・・・57名
ART治療患者・・・14名

- ◆不妊治療患者は保険診療のため基本的には看護師が注射を実施。自費診療可能な一般不妊治療患者でペンタイプの自己注射経験者には、プレフィルドシリンジの安全性を説明し自己注射の実施に向けてパンフレットを使用し自己注射の実施を積極的に行った。
- 体外受精周期の患者は自己注射が可能のためパンフレットで指導し自己注射の実施。

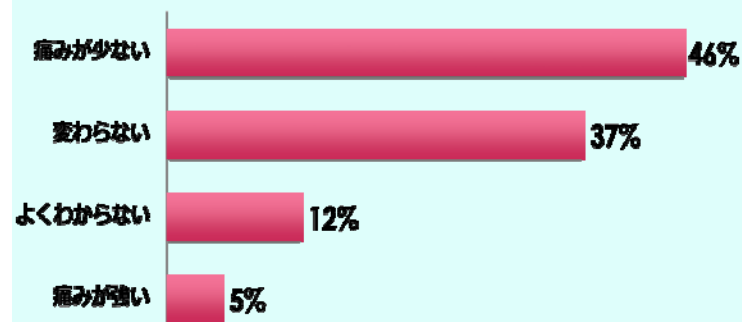
結果

アンケートの結果は未回答者も含んでいるため、グラフの割合は回答者のみの表示となります。

オビドレルを使用した周期

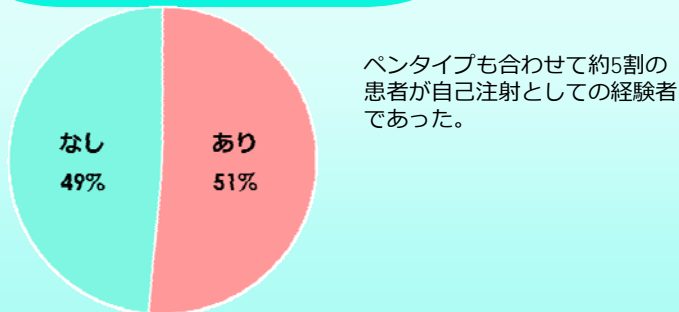


rHCGを打ってみて痛みはどうだったか？

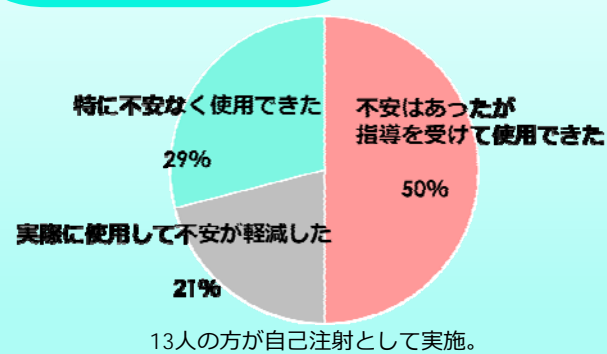


uHCG投与経験のある63人から回答を得た結果、uHCGと比べて約5割の患者が「痛みが少ない」と答えた。rHCGは従来のuHCGと比較すると、成分の違いや注射の部位が異なることにより痛みが少ないと感じた患者の反応が得られたと考える。

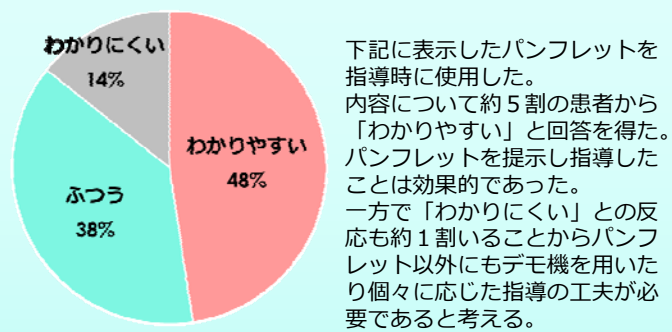
今まで自己注射の経験はあるか



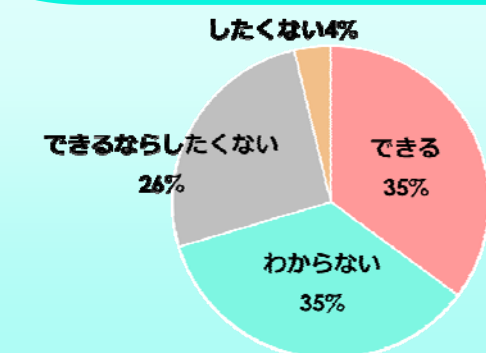
自己注射した患者の感想



パンフレットの内容について



プレフィルドシリンジタイプの注射であれば必要な時に自己注射できるか



考察

今回、遺伝子組み換え型のrHCGが認可されたことにより当院でも導入した。筋肉注射で使用する従来のuHCGに比べ、rHCGは皮下注射で使用するため、約5割の患者が痛みが少ないと感じており、これまで患者が感じていた身体的苦痛を軽減できたと考える。今後自己注射として使用していただける際は、指導をさらに工夫していくことで自己注射への抵抗感を軽減し、安全かつ安心に使用して頂けると考える。また、医療従事者にとってもプレフィルドシリンジタイプのrHCGは安全に準備し使用できることは利点と考える。

今後の課題

rHCGの自己注射の導入をしていければ、来院が困難な患者もライフスタイルを重視したスケジュールの提案がより可能となる。そのためにはアンケートから得た患者からの情報や指導方法を工夫し、安全かつ安心にrHCGを使用していけるように改善していく必要がある。